

叡啓大近くを流れる京橋川を眺め、事業への意気込みを語る木村さん(左)と府川さん



叡啓大1期生 起業の花咲け

今春卒業した叡啓大(広島市中区)の1期生3人が起業に動いている。新たな広島県立大としての開学から4年。大学は未来を自ら切り開く「チェンジメーカー」の育成に力を入れてきただけに、先陣を切る1期生の起業を誇る。3人は在学中に感じた広島の魅力や社会課題の解決をビジネスにつなげようと夢を膨らませている。(石井千枝里)



事業内容を練る藤山さん

木村侑平さん(22)と府川凜平さん(22)は3月下旬、太田川のデルタが広がる広島市内の特徴を生かして水陸両用ホーバークラフトの運航を手がける水都(広島(中区))を設立した。株式会社で、5人程度が乗れるホーバークラフトを開発し、市中心部の川を有料で運航する構想を持っている。

4月にも資金調達を始める。金融機関からの借り入れやクラウドファンディング(CF)で300万円を集め、2年以内に簡易型のホーバークラフトを試作する予定。ホーバークラフトの販売も視野に入れ、年1億1280万円の売上高を試算する。

2人は叡啓大のスタンダードアップパドルボード(SUP)クラブで仲を深めた。大学近く

先陣3人 大学も期待

ホーバークラフト運航/学生人材と企業仲介

の川でSUPを楽しむ「自然豊かな広島が好きになった」と神奈川県出身の府川さん。卒業後は地元に戻る考えだったが、2人で人口流出などを議論するうち広島の魅力向上につながる仕事をしようとした。起業に向け、太田川で水上交通を運航する企業などを2人で訪ねて収益性も探った。

社長を務める木村さんは将来的に広島の企業と一緒にものづくりをしたいう力を込める。指導した保井俊之教授(社会システムデザイン)は「地域の魅力を高めることで、若者の流出という課題の解決に挑む事業。革新的な影響が期待できる」と背中を押す。

起業の準備を進めるのは藤山実咲さん(22)。人材確保を図る企業や団体と在学中の学生をアルバイトなどで結び付けるビジネスを模索する。ボランティアとして企業などの活動に無償参加する学生もいる中、「若者の労働が正当に評価されるよう支援したい」と話す。

今後は父の協力も得て会社を設立する方針でいる。藤山さんは「大学で身に付けた思考力を生かし、世の中をよりよくしていきたい」と前を向く。

叡啓大は1期生58人が巣立った。3人の起業を大学は「学生企画のプロジェクトに対する助成制度や起業に向けたセミナー開催などで支援してきた。実際にアクションを起こした卒業生の存在は教育成果の一つ」と評価する。